事務事業実績測定調書

事務事業名称	グループホーム運営安定化補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所			課	障害企画課	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	10-1.障害福祉サービスの充実							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2014(H26)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市グループホーム運営費補助金交付要綱、枚方市グループホーム新規開設等整備補助金交付要綱				
関係補助金名称	枚方市グループホーム運営費補助金 枚方市グループホーム新規開設等整備補助金	サンセット	2020(R2)年度	~	2022(R4)年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	グループホームを運営する法人			
	サブターゲット	グループホームを利用する障害者			
	ターゲットが抱える課題	グループホームの利用はニーズが高いが、数が不足している。開設、運営に係る事業者の負担が大きい。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	運営の安定により、充分な人員や設備の改善が実現し、需要を満たすサービスの提供が確保され、質の高いサービスが提供されている。				
事業概要	・枚方市内のグループホームに生活支援員が常駐又は巡回し、その業務を行った場合、利用者の障害の程度に応じて以下のとおり補助金を交付。① ②～⑤以外の障害者　利用者1人1日につき100円② 身体障害者手帳総合等級1・2級　同500円③ 療育手帳A　同500円④ 精神障害者保健福祉手帳1級　同500円⑤ 重度心身障害者(身体障害者(肢体)1・2級と療育手帳Aを併せ持つ方)　同900円 ・2012年度からグループホームの設置を促進するため、開設・増設時の整備補助を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	需要を満たすサービスの提供が確保され、質の高いサービスが提供される。	運営の安定により、充分な人員や設備の改善が実現する。	枚方市グループホーム運営費補助金を交付する。

指標設定

	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	入居者の利用満足度 【算出式:入居者定員の増加数/月当り利用者数前年度比×100】				入居者定員の増加数				交付決定事業者件数			
単位	%				人				件			
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	87.50	87.50	87.50	87.50	35	35	35	35	25	25	25	25
実績	93.75	102.07			15	15			25	26		
達成度	117%				43%				104%			
分析	グループホーム新規開設による入居者定員が増加し、利用者も増加している。				入居者定員増加数に変化は見られない。				グループホーム新規開設に伴い、事業者件数が増加している。			

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル②	需要を満たすサービスの提供が確保され、質の高いサービスが提供される。	グループホームの開設・増設が行われる。	枚方市グループホーム新規開設等整備補助金を交付する。

指標設定②

	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	入居者の利用満足度 【算出式:入居者定員の増加数/月当り利用者数前年度比×100】				開設・増設住居における入居者定員の増加数				交付申請件数			
単位	%				人				件			
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	87.50	87.50	87.50	87.50	35	35	35	35	10	10	10	10
実績	93.75	102.07			37	33			8	8		
達成度	117%				94%				80%			
分析	グループホーム新規開設による入居者定員が増加し、利用者も増加している。				入居者定員増加数に変化は見られない。				ほぼ想定通りで変化は見られない。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.50
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.35
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,207	0	3,929		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	14,519		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	3,207	0	18,448		
	物件費計		37,148	39,527	6,220	46,466	89%
	歳出計		40,355	39,527	24,668		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	0	0	0	
一般財源			40,355	39,527	6,220	46,466	

5. 総括的分析

総括的分析	グループホーム利用者の増加数は前年度と比較すると低下しているが、グループホーム運営事業者数は増加している。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	事業を継続実施し、事業者に対し新規開設等に関わる整備補助・運営に関わる支援を行い、グループホームの整備促進を図る。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	基準該当事業所補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2007(H19)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市基準該当障害福祉サービス運営補助金交付要綱				
関係補助金名称	基準該当障害福祉サービス(生活介護・自立訓練)運営補助金	サンセット	2020(R2)年度	~	2022(R4)年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	基準該当事業所を運営する法人			
	サブターゲット	在宅の重度身体障害者等			
	ターゲットが抱える課題	介護保険報酬に比べて障害福祉サービス報酬が低い。 在宅の重度身体障害者等の入浴等を支援する事業所が不足している。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	介護保険適用のデイサービスセンター等の基準該当事業所としての指定を促進することにより、在宅の重度身体障害者等の入浴等の機会を確保できている。				
事業概要	障害者が介護保険適用のデイサービスセンターを利用した場合、利用者1人当たり1日につき1,500円、重症心身障害者(児)については2,000円を補助する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル	在宅の重度身体障害者等の入浴等の機会が確保される。	介護保険適用のデイサービスセンター等の基準該当事業所としての指定が促進される。	基準該当障害福祉サービス(生活介護・自立訓練)運営補助金を交付する。

指標設定	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
指標説明	基準該当福祉サービス利用日数				基準該当福祉サービス利用者数				交付決定事業者件数			
			単位	日			単位	人			単位	件
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標(見込み)	7,500	7,500	7,500	7,500	70	70	70	70	15	15	15	15
実績	5,514	5,533			83	80			12	11		
達成度	74%				114%				73%			
分析	サービス利用日数は増加している。				サービス利用者数はやや減少している。				事業所が交付申請をしなかったため、減少している。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.10
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.35
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	802	0	786		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	374	306		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	802	374	1,092		
	物件費計		9,618	8,778	7,551	10,220	85%
	歳出計		10,420	9,152	8,643		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	0	0	0	
一般財源			10,420	8,778	7,551	10,220	

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、利用者・事業者数が減少したが、サービス利用日数は増加している。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	事業を継続実施し、生活介護及び自立訓練を行う者の処遇の向上を図る。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	京阪ブロック身体障害者体育大会運営補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1967(S42)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称	京阪ブロック身体障害者(児)体育大会運営経費補助金	サンセット	2020(R2)年度	~	2022(R4)年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	大会を運営する京阪ブロック障がい者スポーツレクリエーション大会委員会(身体障害者福祉会)			
	サブターゲット	スポーツに興味のある障害者			
	ターゲットが抱える課題	障害者のスポーツを通じての社会参加の場が少ない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	大会参加により、障害者本人や家族の交流、親睦が促進され、体力の向上や、社会参加活動につながっている。				
事業概要	京阪ブロック障がい者スポーツ・レクレーション大会を通じて、参加者の健康の維持増進及び交流を図る。 ・大会参加の障害者や家族の交流、親睦。 ・スポーツ、レクレーションを通じての体力の向上。 ・大会参加を通じての社会参加活動。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル	大会参加により、障害者本人や家族の交流、親睦が促進され、体力の向上や、社会参加活動につながる。	京阪ブロック障がい者スポーツレクリエーション大会が開催される。	京阪ブロック身体障害者(児)体育大会運営経費補助金を交付する。

指標設定	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
指標説明	参加者数				団体数				交付金額			
			単位	人			単位	団体			単位	円
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標(見込み)	300	300	300	300	1	1	1	1	200,000	200,000	200,000	200,000
実績	0	0			1	1			0	0		
達成度	0%				100%				0%			
分析	コロナ禍により、大会中止になり、分析できず。				コロナ禍により、大会中止になり、分析できず。				コロナ禍により、大会中止になり、分析できず。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	401	0	0		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	401	0	0		
	物件費計		200	0	0	200	―
	歳出計		601	0	0		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	0	0	0	
一般財源			601	0	0	200	

5. 総括的分析

総括的分析	身体障害者福祉会が継続している他市が集まり、体育大会は今後も実施の予定。

6. 今後の方向性

区分	終了
今後の取組方針	枚方市身体障害者福祉会の肢体部が解散になり、大会への参画が終了。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	市立障害者社会就労センター施設維持管理事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	10-2.障害者の就労と社会参加の促進							

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	内部事務	区分	一般内部管理事務
事業期間	2003(H15)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市障害者社会就労センター条例				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	障害者社会就労センター利用者及び保護者			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	生産活動にかかる知識及び能力に乏しく通常の事業所に雇用されることが困難。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	生産活動にかかる知識及び能力の向上に伴い、受取り工賃額が増加している。				
事業概要	通常の事業所に雇用されることが困難な障害者のうち通常の事業所に雇用されていた障害者に生産活動その他の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のため必要な訓練その他の必要な支援を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル		市立障害者社会就労センターが適正に維持管理されている。	必要な保守点検等を実施する。

指標設定	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明		修繕料、補修工事費等に係る当初予算額に対する決算額の割合。 【算出式:決算額/当初予算額×100】	指定管理者による点検回数
単位		%	回
指標種類		減少することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	アウトカム R2	R3	R4	R5	アウトプット R2	R3	R4	R5	インプット R2	R3	R4	R5
目標（見込み）					100以内	100以内	100以内	100以内	1	1	1	1
実績					102	0			1	1		
達成度					0%				100%			
分析					R3は修繕なし。				適切な点検を行った。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.80
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	802	0	6,286		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	802	0	6,286		
	物件費計		7,967	5,442	5,062	5,451	93%
	歳出計		8,769	5,442	11,348		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		929	0	0	0	
	歳入計		929	0	0	0	
一般財源			7,840	5,442	5,062	5,451	

5. 総括的分析

総括的分析	令和3年度は修繕はなかったが、令和4年度以降必要な修繕が発生したら対応するところです。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	令和3年度は修繕はなかったが、令和4年度以降必要な修繕が発生したら対応するところです。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	社会福祉審議会障害福祉専門分科会運営事務								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務
事業期間	2014(H26)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	社会福祉法、枚方市社会福祉審議会条例				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称	社会福祉審議会障害福祉専門分科会				
事業対象	メインターゲット	審議会の運営			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	審議会の円滑な運営を実現する			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	適正かつ効果的な運営を図る				
事業概要	枚方市社会福祉審議会　障害福祉専門分科会を開催し、枚方市障害福祉計画、枚方市障害児福祉計画及び枚方市障害者計画の策定、計画の進捗状況の分析・評価をした上で、必要な対応を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル			

指標設定	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	単位	単位	単位
指標種類			

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）												
実績												
達成度												
分析												

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.15
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	1,603	0	1,179		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	1,603	0	1,179		
	物件費計		0	5,157	0	0	―
	歳出計		1,603	5,157	1,179		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	0	0	0	
一般財源			1,603	5,157	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	適正かつ効率的運営に関わった。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	今後も適正かつ効率的運営を進める。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害者タクシー基本料金補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	10-2.障害者の就労と社会参加の促進							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1991(H3)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市福祉タクシー基本料金助成事業実施要綱				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	外出の移動が困難な在宅の障害者。			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	在宅の障害者で福祉タクシーを必要とする者の経済的負担が重い。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	在宅の障害者で福祉タクシーを利用する者の経済的負担が軽減され、日常生活の利便等が増進している。				
事業概要	対象者にタクシー基本料相当分(リフト付タクシーは大型車相当額)のチケットを年24枚交付(月2枚)				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	日常生活の利便等が増進する。	対象者にタクシー基本料相当分のチケットを交付する。	制度利用の基盤を整備する。

指標設定	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	対象者における福祉タクシー利用率【算出式:申請者数/身体障害1･2級療育A×100】	福祉タクシー利用実績数	チケットに対応する事業者数
単位	%	件	件
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	32	32	32	32	25,400	25,400	25,400	25,400	55	55	55	55
実績	28	31			19,349	20,078			52	55		
達成度	97%				79%				100%			
分析	コロナ等の影響により、想定よりも少なくなった。				コロナ等の影響により、想定よりも少なくなった。				ほぼ想定通りであった。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.50
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.30
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	2,405	0	3,929		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	747	729		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	2,405	747	4,658		
	物件費計		16,735	13,340	6,062	17,860	77%
	歳出計		19,140	14,087	10,720		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	0	0	0	
一般財源			19,140	13,340	6,062	17,860	

5. 総括的分析

総括的分析	チケットの利用に係る指標については、想定を多少下回る形となったが、少しずつ増えている。令和3年度もコロナ禍により、外出機会が減ったことが要因の一つだと考えられる。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	昨年度に引き続き実施する。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害者施設等整備補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2014(H26)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市障害者施設等整備費補助金交付要綱				
関係補助金名称	社会福祉施設等施設整備費補助金	サンセット	2020(R2)年度	~	2022(R4)年度
関係附属機関名称	障害者施設等整備審査会				
事業対象	メインターゲット	新規開設、改修等を行う施設を運営する法人			
	サブターゲット	日中活動の場を必要とする障害者、事業所に通所する障害者			
	ターゲットが抱える課題	障害者施設等を整備するには莫大な初期コストが必要で、十分な量の福祉サービスの提供が満たされない。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	市内の障害者施設等の整備が促進され、市民ニーズに応じた十分な量の福祉サービスの提供が行われている。				
事業概要	国が定める社会福祉施設等施設整備費国庫補助金交付要綱に基づき、補助基準額を上限に、整備に要する対象経費の4分の3の金額(国2分の1、枚方市4分の1)を補助する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル		市内の障害者施設等の整備が促進される。	社会福祉施設等施設整備費補助金を交付する。

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明					整備件数				交付件数			
			単位				単位	件			単位	件
指標種類					増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）					1	1	1	1	1	1	1	1
実績					1	0			1	0		
達成度					0%				0%			
分析					今年度の整備2件について年度中の竣工ができなかったため、次年度へ繰り越しを行った。				今年度の整備2件について年度中の竣工ができなかったため、次年度へ繰り越しを行った。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	1.05
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	7.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	6,414	0	8,250		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	67		
		人件費計	6,414	0	8,317		
	物件費計		0	108,900	0	205,110	―
	歳出計		6,414	108,900	8,317		
歳入	国庫支出金		0	72,600	0	136,739	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	29,000	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	101,600	0	136,739	
一般財源			6,414	7,300	0	68,371	

5. 総括的分析

総括的分析	毎年一定数の申請は続いており、今後も見込まれる。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	事業を継続実施し、グループホーム等の整備促進を図り利用者が安心して生活できるよう、建て替えや施設建物の改修や設備設置等施設整備に対する事業者の支援を図る。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害者歯科診療補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	10-1.障害福祉サービスの充実							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1992(H4)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市障害者歯科診療運営補助金交付要綱				
関係補助金名称	障害者(児)歯科診療事業補助金	サンセット	2020(R2)年度	~	2022(R4)年度
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市歯科医師会			
	サブターゲット	地域の歯科診療所で受診が困難な障害者			
	ターゲットが抱える課題	障害があるため、地域の歯科診療所での受診・診療が困難である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	地域の一般歯科での受診・診療が困難な障害者(児)の歯科診療の機会を確保できている。				
事業概要	枚方市歯科医師会に対し、障害者(児)歯科診療運営補助金を交付することにより、障害者(児)歯科診療の円滑かつ効果的な運営を図る。 診療は、枚方休日歯科急病診療所(保健センター内)にて行う。 枚方休日歯科急病診療所(保健センター内)で毎週木曜日の午後1時～5時及び月2回土曜日の午後2時～6時に診察を実施。予約制。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル	地域の一般歯科での受診・診療が困難な障害者(児)の歯科診療の機会を確保できる。	障害者(児)歯科診療の場が開設される。	障害者(児)歯科診療事業補助金を交付する。

指標設定	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
指標説明	受診者数				診療日数				補助金交付申請数			
単位	人				日				件			
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標(見込み)	750	750	750	750	72	72	72	72	1	1	1	1
実績	672	679			72	72			1	1		
達成度	91%				100%				100%			
分析	コロナ禍による受診控えがあった中で、一定数の実績は達成できた。				診療曜日が決まっている中、休診することなく実施できた。				引き続き、交付申請を適切に処理する。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.08
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	160	0	629		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	160	0	629		
	物件費計		13,416	13,416	13,289	13,416	99%
	歳出計		13,576	13,416	13,918		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	45	0	0	
	歳入計		0	45	0	0	
一般財源			13,576	13,371	13,289	13,416	

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルス感染症の影響により、今後も受診件数の見込みが推測しにくいが、引き続きこれまでの取り組みを継続する。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	事業を継続実施し、枚方市歯科医師会と連携し、障害児・者の歯科診療の促進を図り、受診機会をさらに増やすなど診療体制の充実に努める

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害者総合支援法等に基づく地域生活支援事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	障害者の就労と社会参加の促進							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1989(S64)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法、枚方市難聴児特別補聴器給付事業実施要綱、枚方市身体障害者配食サービス事業実施要綱、障害者緊急通報システム設置要綱、枚方市訪問入浴事業実施要綱、枚方市日中一時支援事業実施要綱、枚方市障害者日常生活用具給付事業実施要綱				
関係補助金名称				サンセット	～
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	身体障害等により日常生活の不安、困難が生じている障害者。			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	身体障害等のある方が障害の特性により地域生活の困難を生じる。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	必要な障害福祉サービスの給付等と併せて実施、障害のある方の地域生活の困難等が軽減されている。				
事業概要	身体障害のある方の地域生活を支援するため、障害の特性に応じて必要な支援を実施する。 緊急通報装置:在宅障害者の居宅に緊急通報装置を設置 配食サービス:食事宅配手数料を助成 難聴児補聴器交付:軽度・中度の難聴児に対し、特別補聴器購入費用等を助成 スポーツ教室などの障害者社会参加促進事業、身体障害者の訪問入浴、身体障害者の日常生活用具、屋外での移動が困難な障害者について、外出のための移動支援及び家族介護者の急用や休息のための日中一時支援にかかる業者選定及び支払業務				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	障害者・児のスポーツ振興とスポーツを通じた交流を行う。	スポーツ講習会、ふれあいスポーツ交流会を実施する。

指標設定	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度 【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				延べ参加者数				開催日数			
	単位		%		単位		人		単位		日	
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標(見込み)	80	80	80	80	3,000	3,000	3,000	3,000	150	150	150	150
実績	100	0			748	877			42	98		
達成度	0%				29%				65%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				R2では新型コロナウイルス感染症予防対策により大幅な減少であったが、R3はやや回復傾向しつつある。				R2では新型コロナウイルス感染症予防対策により大幅に開催日数が減少したが、R3はやや回復傾向にある。			

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル②	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	対象者がサービスを受給する。	身体障害者の訪問入浴事業を実施する。

指標設定②	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度 【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				利用者数				契約事業者数			
	単位		%		単位		人		単位		人	
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標(見込み)	80	80	80	80	5	5	5	5	5	1	1	1
実績	100	0			3	3			3	2		
達成度	0%				60%				200%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				ほぼ想定のとおりであった。				利用者の契約事業者の希望に基づき、適切に契約をする。			

ロジックモデル③	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	対象者がサービスを受給する。	身体障害者の日常生活用具給付事業を実施する。

指標設定③	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				給付品目				品目数			
			単位	%			単位	品目			単位	品目
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込	80	80	80	80	－	－	39	39	49	49	49	49
実績	100	0			－	－			50	50		
達成度	0%								102%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				―				想定のとおりであった。			

ロジックモデル④	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	緊急通報装置の交付決定を実施する。	緊急通報装置設置申し込みを受け付ける。

指標設定④	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				交付決定件数				緊急通報装置新規申込件数			
			単位	%			単位	件			単位	件
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込	80	80	80	80	40	40	40	40	5	5	5	5
実績	100	0			34	34			3	2		
達成度	0%				85%				40%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				前年度と比較し変化はありません。				新規申込件数件数は減少している。			

ロジックモデル⑤	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	対象者がサービスを受給する。	配食サービスの申込を受け付ける。

指標設定⑤	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				利用人数				新規申込件数			
			単位	%			単位	人			単位	件
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	80	80	80	80	4	5	6	7	1	1	1	1
実績	100	0			2	1			0	0		
達成度	0%				20%				0%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				サービス利用人数が減少している。				新規申請なし。			

ロジックモデル⑥	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	対象者がサービスを受給する。	難聴児補聴器交付事業を行う。

指標設定⑥	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				決定件数				申請件数			
			単位	%			単位	件			単位	件
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	80	80	80	80	10	10	20	20	10	10	20	20
実績	100	0			12	10			12	10		
達成度	0%				100%				100%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				決定件数に顕著な変化なく目標達成できた。				申請者数に顕著な変化なく目標達成できた。			

ロジックモデル⑦	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	対象者がサービスを受給する。	生活サポート事業を実施する。

指標設定⑦	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				サービス提供人数				契約事業者数			
			単位	%			単位	人			単位	件
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	80	80	80	80	2	2	2	2	6	6	6	6
実績	100	0			0	0			5	5		
達成度	0%				0%				83%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				前年度と比較し変化はありません。				前年度と比較し変化はありません。			

ロジックモデル⑧	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	自らの意思により日常生活上、余暇活動などの外出ができる。	外出のための支援を行う。

指標設定⑧	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度【算出式:実行委員満足数/委員数×100】				被支援者数				申請事業者数			
			単位	%			単位	人			単位	件
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込	80	80	80	80	1,348	1,368	1,388	1,408	190	200	201	29
実績	100	0			977	983			210	225		
達成度	0%				72%				113%			
分析	委員に満足度を把握していないため不明。				被支援者数は増加している。				申請事業者数は増加している。			

ロジックモデル⑨	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができる。	対象者がサービスを受給する。	日中一時支援事業を実施する。

指標設定⑨	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	地域生活支援事業に対する利用満足度【算出式:実行委員満足数/委員数×100】	支給決定人数	契約事業者数
単位	%	人	件
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標（見込）	80	80	80	80	600	600	600	600	26	27	28	29
	実績	100	0			599	603			19	21		
達成度		0%				101%				78%			
分析		委員に満足度を把握していないため不明。				支給決定人数は増加している。				契約事業者数はやや増加の傾向がある。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	1.20
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.30
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※! 正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

4. 決算額

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	4,810	5,583	9,428		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	144,470		
		特別職非常勤	ー	0	0		
		附属機関委員	ー	0	0		
		人件費計	4,810	5,583	153,898		
	物件費計		1,112	1,695	327,669	558,516	90%
	歳出計		5,922	7,278	481,567		
歳入	国庫支出金		0	0	174,871	261,667	
	府支出金		0	0	86,418	130,575	
	受益者負担（使用料・手数料）		2	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		505	3	2,600	0	
	歳入計		507	494	263,889	392,242	
一般財源			5,415	1,201	63,780	166,274	

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルスの影響が前年度と比較し収まったため、事業全体と通して利用日数・人数等が増加傾向にある。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	障害福祉サービス等を利用し、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、今後も各種事業を実施する。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	精神障害者通所交通費補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1992(H4)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市在宅精神障害者通所交通費補助事業実施要綱				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	作業所等に通所する精神障害者			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	身体障害者、知的障害者にはバス運賃の割引があるが、精神障害者への交通費割引制度のみが整備されておらず、交通費の負担が大きい。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	精神障害者共同作業所への通所により、在宅精神障害者の社会参加が促進されている。				
事業概要	精神障害者への交通費割引制度が整備されていない中で、他障害との均衡を確保し、在宅精神障害者への社会参加を促進する。 精神障害者共同作業所に通所している在宅精神障害者に対して、交通費を1日あたり110円補助することにより、在宅精神障害者の社会参加を促進する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	在宅精神障害者の社会参加が促進される。	申請に対し、適切に交付する。	精神障害者通所交通費補助に係る申請を受け付ける。

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	利用日数				交付者数				申請者数			
単位	日				人				人			
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	15,000	15,000	15,300	15,600	140	140	140	140	160	160	160	160
実績	16,335	16,320			163	163			173	163		
達成度	109%				116%				102%			
分析	目標を上回る利用通所実績があった。				昨年に引き続き目標以上交付できた。				申請者数に顕著な変化はなく目標達成できた。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.15
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.25
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	2,405	0	1,179		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	609		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	2,405	0	1,788		
	物件費計		2,245	1,800	917	2,200	82%
	歳出計		4,650	1,800	2,705		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	1	1	
	歳入計		0	0	1	1	
一般財源			4,650	1,800	916	2,199	

5. 総括的分析

総括的分析	コロナ禍の影響により通所する利用件数は、目標を若干上回る件数となった。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	事業実施を継続し、在宅精神障害者の社会参加の促進を図る。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	特別障害者手当等給付事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業	区分	非選択的事務事業
事業期間	1975(S50)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	特別児童扶養手当等の支給に関する法律				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	特別な介護を要する在宅の重度障害者			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	特別な介護を要する在宅の重度障害者は経済的な不安を抱えている。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	各手当の支給により、自立に向けた所得が保障されている。				
事業概要	在宅の、最重度障害者に「特別障害者手当」を、最重度障害児に「障害児福祉手当」を、障害基礎年金へ移行できなかった人に「福祉手当（経過措置分）」を支給することにより、自立に向けた所得保障に資する。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル		特別障害者手当の支給を行う。	特別障害者手当の支給申請を受理する。

指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明		1年間に手当を交付した支給件数	申請件数
単位		件	件
指標種類		増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）					6,300	6,300	6,300	6,300	80	80	80	80
実績					6,760	7,118			50	108		
達成度					113%				135%			

分析		根拠法令に従い適切に支給した。	引き続き、交付申請を適切に処理する。

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル②		障害児福祉手当の支給を行う。	障害児福祉手当の支給申請を受理する。

指標設定②

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明		1年間に手当を交付した支給件数	申請件数
単位		件	件
指標種類		増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）					2,800	2,800	2,800	2,800	40	40	40	40
実績					3,020	3,039			31	28		
達成度					109%				70%			

分析		根拠法令に従い適切に支給した。	引き続き、交付申請を適切に処理する。

ロジックモデル③	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
		福祉手当（経過措置分）の支給を行う。	福祉手当（経過措置分）の支給申請を受理する。

指標設定③		アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明						1年間に手当を交付した支給件数				申請件数			
				単位				単位	件			単位	件
指標種類						増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標（見込					120	120	120	120	0	0	0	0
	実績					114	109			0	0		
達成度						91%				0%			
分析						根拠法令に従い適切に支給した。				新規認定はないため、申請なし。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.50
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.15
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	5,211	0	3,929		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	36,220		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	5,211	0	40,149		
	物件費計		218,932	231,496	84,512	244,161	99%
	歳出計		224,143	231,496	124,661		
歳入	国庫支出金		163,843	173,362	178,284	183,105	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	109	0	110	
	歳入計		163,843	173,471	178,284	183,215	
一般財源			60,300	58,025	▲ 93,772	60,946	

5. 総括的分析

総括的分析	支給件数は、目標を上回る件数となった。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	根拠法令に従い適正に実施する

事務事業実績測定調書

事務事業名称	難病患者等の地域生活支援事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所			課	障害企画課	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業	区分	非選択的事務事業
事業期間	1980(S55)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	(国)小児慢性特定疾患児日常生活用具給付事業実施要綱				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	日常生活用具の給付を必要とする障害児			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	障害児の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことが困難。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	用具の給付により、日常生活が便利にまたは容易となっている。				
事業概要	障害者総合支援法の改正で、平成25年4月より、障害者の定義に難病患者が追加されたことに伴い、ホームヘルプサービスや短期入所サービスの提供は自立支援給付に移行し、日常生活用具の給付のみを行う。 医療保険上の世帯が市民税非課税世帯に属する難病患者等に対し、療養費の助成として、月額2,200円を9月末及び3月末の年2回、支給を行う。(平成30年度に未払いのみ処理し、令和元年度より完全修了)				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル		対象者がサービスを受給できる。	日常生活用具の給付を行う。

指標設定		アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
指標説明				単位		交付件数		単位	件	申請件数		単位	件
指標種類						増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)					10	10	10	10	10	10	10	10
	実績					0	4			0	4		
達成度						40%				40%			
分析						R2ではコロナウイルス感染等で交付件数0件でしたが、R3は回復傾向にある。				R2ではコロナウイルス感染等で交付件数0件でしたが、R3は回復傾向にある。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.11
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,207	0	864		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	3,207	0	864		
	物件費計		278	0	336	273	123%
	歳出計		3,485	0	1,200		
歳入	国庫支出金		158	0	136	136	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		158	0	136	136	
一般財源			3,327	0	200	137	

5. 総括的分析

総括的分析	昨年度は0件であったが、今回は4件に申請件数が増加した。今後の増加については、

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	小児慢性特定疾患児に対する補助については、国の要綱に準じ、今後も継続していく。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	重症心身障害者宿泊訓練補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	10-1.障害福祉サービスの充実							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2016(H28)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	枚方市重症心身障害者宿泊訓練補助金交付要綱				
関係補助金名称	重症心身障害者宿泊訓練補助金	サンセット	2021(R3)年度	~	2023(R5)年度
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	指定障害福祉サービス事業所(生活介護)を運営する法人
	サブターゲット	宿泊訓練により、自立を目指す重症心身障害者
	ターゲットが抱える課題	重症心身障害者が宿泊訓練を行うには通いなれた生活介護事業所での宿泊訓練を実施することが適当と考えられるが、現行制度では宿泊訓練についての報酬が設定されていない。
	ターゲットが抱える課題	
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	指定障害福祉サービス事業所(生活介護)が宿泊訓練を行うことにより、重症心身障害者が自立した地域生活が実現できている。	
事業概要	指定障害福祉サービス事業所(生活介護)を運営する者に対し、重症心身障害者宿泊訓練補助金を交付することにより、在宅で暮らす重症心身障害者の自立した生活ができるよう支援する。 重症心身障害者が1／2以上在籍する日中活動系の市内の事業者が行う宿泊訓練に対し、40万を限度に補助金を交付する。訓練は1回あたり2人以上で、年10回以上実施すること。	

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	重症心身障害者が自立した地域生活が実現できる。	指定障害福祉サービス事業所(生活介護)が宿泊訓練を行う。	重症心身障害者宿泊訓練補助金を交付する。

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	訓練を受けた者の数のうち、地域生活における新たなサービスの利用等を開始等に繋がった人数の割合【算出式:新規人数／訓練実施人数　×100】				訓練を受けた障害者の延べ人数				補助金の交付事業所数			
			単位	%			単位	人			単位	箇所
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	100	100	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1
実績	0	0			0	0			0	0		
達成度	0%				0%				0%			
分析	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を自粛したため。				新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を自粛したため申請なし。				新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を自粛しため補助金の交付はなかった。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.01
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

4. 決算額

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	80	0	79		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	80	0	79		
	物件費計		344	0	0	800	―
	歳出計		424	0	79		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	0	0	0	
一般財源			424	0	0	800	

5. 総括的分析

総括的分析	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を自粛しため。

6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取組方針	利用方法のあり方について再度確認必要。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害者総合支援法に基づく意思疎通支援事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	10-2.障害者の就労と社会参加の促進							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1980(S55)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法、枚方市意思疎通支援事業実施要項、枚方市重度障害者入院時コミュニケーション支援事業実施要項				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	意思疎通に困難のある聴覚障害者等			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	障害者の適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことが困難。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	必要な障害福祉サービスの給付等と併せて実施、障害者の適正に応じ、自立した日常生活及び社会生活が営むことができている。				
事業概要	意思疎通困難な障害者に対する支援者の派遣（手話通訳、要約筆記、入院時コミュニケーション支援） 意思疎通困難な障害者を支援する者の養成（手話通訳、要約筆記、点訳、音訳、専門性の高い意思疎通支援） 窓口における手話通訳者の設置。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	必要な障害福祉サービスの給付等と併せて実施することにより、自立した日常生活及び社会生活を営むことが出来る。	手話通訳、要約筆記、入院時コミュニケーション支援が受けられる。	支援者派遣事業を実施する。

指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	利用者の年間一人当たりの派遣件数 【算出式:年間派遣件数/実利用者数×100】	年間派遣件数	実利用者数（手話通訳、要約筆記、入院時コミュニケーション）
単位	件	件	人
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	33	15	15	15	1,356	1,180	1,190	1,195	3	80	81	82
実績	33	4			1,181	1,349			2	54		
達成度	27%				114%				68%			
分析	コロナ等の影響により、想定よりも少なくなった。				想定とおり上回った。				コロナ等の影響により、想定よりも少なくなった。			

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル②	必要な障害福祉サービスの給付等と併せて実施することにより、自立した日常生活及び社会生活を営むことが出来る。	市民が講座を受講する。	支援者養成のための講座を実施する。

指標設定②

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	利用者の年間一人当たりの派遣件数 【算出式:年間派遣件数/実利用者数×100】	講座受講者数	実施講座数 （手話、手話ステップアップ、点訳、音訳）
単位	件	人	講座
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	33	15	15	15	80	80	80	80	4	4	4	4
実績	33	4			10	63			1	3		
達成度	27%				79%				75%			
分析	コロナ等の影響により、想定よりも少なくなった。				コロナウィルス感染症予防対策を徹底的に図ったため傾向しつつある。				コロナウィルス感染症予防対策を徹底的に図ったため1講座以上開催しつつある。			

ロジックモデル③	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
	必要な障害福祉サービスの給付等と併せて実施することにより、自立した日常生活及び社会生活を営むことが出来る。	手話通訳者が窓口対応する。	手話通訳者を配置する。

指標設定③		アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明		利用者の年間一人当たりの派遣件数 【算出式:年間派遣件数/実利用者数×100】				配置通訳者勤務日数				配置通訳者数			
				単位	件			単位	日			単位	人
指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標（見込）	33	15	15	15	243	243	243	243	1	1	1	1
	実績	33	4			243	242			1	1		
達成度		27%				100%				100%			
分析		コロナ等の影響により、想定よりも少なくなった。				想定通り。				想定通り。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.50
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.50
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	6.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	7,055	0	3,929		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	1,361	1,217		
		特別職非常勤	ー	0	0		
		附属機関委員	ー	0	0		
		人件費計	7,055	1,361	5,146		
	物件費計		12,074	10,596	8,377	15,889	82%
	歳出計		19,129	11,957	13,523		
歳入	国庫支出金		5,905	5,055	5,889	10,562	
	府支出金		2,950	1,813	2,244	3,324	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		8,855	6,868	8,133	13,886	
一般財源			10,274	3,728	244	2,003	

5. 総括的分析

総括的分析	支援者養成のための講座について、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、点訳講習会のみ中止となり、修了者が0人となった。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	全ての講習会を実施し奉仕員の人数を増やし、有資格者の拡大も目指す。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	精神保健推進事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	1973(S48)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	精神衛生都市宣言、決裁				
関係補助金名称	精神保健推進事業補助金	サンセット	2020(R2)年度	~	2022(R4)年度
関係附属機関名称	枚方市社会福祉審議会				
事業対象	メインターゲット	心に病のある当事者、その家族、ボランティアなど			
	サブターゲット	精神障害者			
	ターゲットが抱える課題	精神保健にかかる市民の理解が低い。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	心に病のある人の当事者組織や家族会、ボランティアグループ等の活動支援。 心の健康を保ちながら生活できる地域づくり。				
事業概要	精神障害者当事者を中心にこころの電話相談員養成、こころの電話相談などを実施している。 「こころの電話相談」事業のほか、当事者会、家族会等自助グループ活動への助成を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	こころの電話相談による精神保健の推進体制が充実する。	こころの電話相談員養成が行われる。	こころの電話相談員養成講座を実施する。

指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	こころの電話相談件数	こころの電話相談員養成者数	養成講座の実施回数
単位	件	人	回
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	2,600	2,700	2,800	2,900	500	500	10	10	50	50	1	1
実績	2,659	3,625			240	527			35	53		
達成度	134%				105%				106%			

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
分析	当初の予定どおり、こころの電話相談を開設することができた。また、新型コロナウイルス感染症防止のため、開設回数を減らした昨年度と比べ、開設回数を増やしたことで相談件数が増加した。	こころの電話相談員のフォローアップ等研修を行い相談員の技術向上を図れた。	こころの電話相談員のフォローアップ等研修を行い相談員の技術向上を図れた。

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル②	こころの電話相談による精神保健の推進体制が充実する。	こころの電話相談が実施される。	精神保健推進事業補助金を交付する。

指標設定②

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	こころの電話相談件数	こころの電話相談開設日数	交付事業者数
単位	件	日	件
指標種類		増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	2,600	2,700	2,800	2,900	363	363	363	363	1	1	1	1
実績	2,659	3,625			316	362			1	1		
達成度	134%				100%				100%			

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
分析	当初の予定どおり、こころの電話相談を開設することができた。また、新型コロナウイルス感染症防止のため、開設回数を減らした昨年度と比べ、開設回数を増やしたことで相談件数が増加した。	当初の予定どおり、こころの電話相談を開設することができた。	当初の予定どおり、補助金を交付した。

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.05
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.50
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	401	0	393		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	1,217		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	401	0	1,610		
	物件費計		11,553	10,828	1,451	3,102	99%
	歳出計		11,954	10,828	3,061		
歳入	国庫支出金		0	0	0	0	
	府支出金		0	0	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		0	0	0	0	
一般財源			11,954	10,828	1,451	3,102	

5. 総括的分析

総括的分析	当初の予定どおり、心の電話相談の開設による支援などを行うことができた。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	今後も事業を継続し、精神障害者当事者やその家族に対する支援を行う。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	地域活動支援センター事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	10-2.障害者の就労と社会参加の促進							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2006(H18)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法、障害者基幹相談支援事業実施要綱				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	日常生活においての困りごと等相談支援を必要とする障害者等			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことに様々な困難がある。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	障害者の社会との交流の促進を図り、良好な地域生活が実現されている。				
事業概要	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供するとともに社会との交流の促進を図り、障害者の地域生活に必要な相談や情報提供を行う。 地域活動支援センターⅠ～Ⅲ型の事業所に委託をして実施。 委託事業所数 地域活動支援センターⅠ型（地域の社会基盤との連携強化のための調整等を実施） 6か所 地域活動支援センターⅡ型（雇用・就労が困難な在宅障害者への機能訓練等のサービスの実施） 1か所 地域活動支援センターⅢ型（利用者へ地域の実情に応じた支援を実施） 1か所				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会が提供されることにより、障害者の社会との交流の促進を図り、良好な地域生活が実現される。	地域活動支援センターⅠ～Ⅲ型の事業所に事業が実施される。	地域活動支援センターⅠ～Ⅲ型の事業所に事業を委託する。

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	延べ利用者数				地域活動支援センターの年間利用者数				委託事業所による延べ開所日数			
			単位	人			単位	人			単位	日
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）	42,100	42,500	42,900	43,300	835	840	845	850	2,070	2,300	2,300	2,300
実績	32,883	35,224			984	861			2,017	2,365		
達成度	83%				103%				103%			
分析	コロナ等の影響により、想定よりも少なくなった。				ほぼ想定とおりであった。				ほぼ想定とおりであった。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.10
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	802	0	786		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	0	0	0		
		特別職非常勤	―	0	0		
		附属機関委員	―	0	0		
		人件費計	802	0	786		
	物件費計		152,308	149,700	165,000	165,000	100%
	歳出計		153,110	149,700	165,786		
歳入	国庫支出金		21,553	20,250	23,250	34,793	
	府支出金		10,776	10,125	11,625	17,575	
	受益者負担（使用料・手数料）		0	0	0	0	
	市債		0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	
	歳入計		32,329	30,375	34,875	52,368	
一般財源			120,781	119,325	130,125	112,632	

5. 総括的分析

総括的分析	例年参加の割合が多いが、令和3年度もコロナ禍により利用者数が減少したことが要因と思われる。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	Ⅰ型は、多様なニーズに対応するための拠点として各地域の障害者支援の中心的役割としての機能を高めるよう努め、またⅡ・Ⅲ型は、創作的活動、生産活動、交流の場等、障害者の日中活動の場として、計画的に整備の促進を図る。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	グループホーム世話人養成及び確保・定着支援事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所			課	障害企画課	
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事務	区分	一般事務事業
事業期間	R3年度(2021年度)	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	枚方市内において、グループホーム世話人として活動を行う意欲のある人			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	人材不足。育成・養成及び人材確保及び定着が課題。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	枚方市内において、グループホーム世話人を育成養成し、また、研修修了者が市内のグループホームで継続して就職することで、障害者福祉にかかる人材の確保及び定着を図るもの。障害福祉計画（第6期）の期間。				
事業概要	【目的】 障害者福祉、特に、グループホームの世話人については、その人材育成及び確保が課題となっていることから、養成研修とその人材確保及び定着を図るもの。 【補助内容】 ①受講修了者に対し、受講料の補助を行う。（一般については、半額補助。） ②受講修了者で、市内のグループホームに就職し、年度末まで継続して就労した者に対し、人材の確保及び定着を図るため、初年度は2万円、2年目は4万円を支給するもの。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	世話人の育成及び確保並びに定着に繋げる。	受講修了者に対し、定着支援に係る補助制度の案内および市内のグループホームに就職することを勧める。	グループホーム世話人の研修受講修了者に対し、受講料の補助を実施する。

指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	受講修了者のうち、市内のグループホームに就職して2年目の人数	受講修了者のうち、市内のグループホームに就職した人数	受講修了者への補助件数
単位	人	人	件
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）		10	10	10		10	10	10		10	10	10
実績		0				0				7		

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
達成度	0%	0%	70%
分析	新型コロナウイルス感染拡大の影響のためか、就職した人はいない。	新型コロナウイルス感染拡大の影響のためか、就職した人はいない。	受講生全員が補助金申請をし、交付を受けている。

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル②	世話人の育成及び確保並びに定着に繋げる。	補助の実施により、人材の定着を図る。	受講修了者のうち、市内のグループホームに就職し、初年度および次年度まで継続して就労している者に対し、それぞれ補助を実施する。

指標設定②

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
指標説明	受講修了者のうち、市内のグループホームに就職して2年目の人数	市内グループホーム就職1年目、2年目職員の離職人数	補助件数
単位	人	人	件
指標種類	増加することが良いとされる指標	減少することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）		10	10	10		1	1	1		10	10	10
実績		0				0				0		

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
達成度	0%	200%	0%
分析	新型コロナウイルス感染拡大の影響のためか、就職した人はいない。	離職者はいない。	市内のグループホームに就職した人はいない。

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.25
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	ー	ー	1,964		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	ー	ー	0		
		特別職非常勤	ー	ー	0		
		附属機関委員	ー	ー	0		
		人件費計	ー	ー	1,964		
	物件費計		ー	ー	7	210	3%
	歳出計		ー	ー	1,971		
歳入	国庫支出金		ー	ー	0	0	
	府支出金		ー	ー	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		ー	ー	0	0	
	市債		ー	ー	0	0	
	その他		ー	ー	7	0	
	歳入計		ー	ー	7	0	
一般財源			ー	ー	0	210	

5. 総括的分析

総括的分析	グループホーム世話人養成研修修了者が、同年度内にグループホームへの就労はありませんでした。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	研修開講時に補助金の説明をしていますが、研修修了時に再度案内することで、受講生の補助金活用を促す。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	移動支援従事者養成研修の受講料補助事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	内部事務	区分	一般事務事業
事業期間	R3年度(2021年度)	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法　地域生活支援事業				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	枚方市内において、今後、移動支援従事者として活動を行う意欲のある人
	サブターゲット	
	ターゲットが抱える課題	人材育成・養成をおこない、人材確保を図ることが必要
	ターゲットが抱える課題	
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	枚方市内において、移動支援従事者を育成養成し、障害者福祉にかかる人材の確保を図るため、研修の受講料を補助するもの。障害福祉計画（第6期）の期間。	
事業概要	【目的】 障害者福祉、特に市町村における地域支援事業にかかる移動支援従事者の人材育成、養成のため。 【補助内容】 受講修了者に対し受講料の補助を行う。（一般については、半額補助。学生については、本人負担を1000円としてその差額を補助する） 【補助金（必要経費）総額】 移動支援については、定員50人を年2回実施。 320,000円　（3,000×40＋4,000×10＝160,000　を年2回。　）	

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	研修費用の補助を実施することにより、障害者福祉にかかる新たな人材の確保を図る。	受講修了者数に対し、補助を実施する。	障害福祉における移動支援従事者養成研修受講者に対し、適切に研修を実施する。

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	移動支援従事者数				補助件数				受講修了者数			
単位	人				件				人			
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）		3,476	3,576	3,676		100	100	100		100	100	100
実績		3,631				45				63		
達成度	104%				45%				63%			
分析	事業所数は増加しているが、移動支援従事者は前年度実績がないため不明。				R3から事業実施したため、R2実績はありません。				新型コロナウイルス感染拡大の影響で、受講修了者が減少している。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.50
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	―	―	3,929		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	―	―	0		
		特別職非常勤	―	―	0		
		附属機関委員	―	―	0		
		人件費計	―	―	3,929		
	物件費計		―	―	167	320	52%
	歳出計		―	―	4,096		
歳入	国庫支出金		―	―	0	0	
	府支出金		―	―	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		―	―	0	0	
	市債		―	―	0	0	
	その他		―	―	0	0	
	歳入計		―	―	0	0	
一般財源			―	―	167	320	

5. 総括的分析

総括的分析	研修受講修了者のうち、約7割が補助金の交付を受けていました。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	研修開講時に補助金の説明をしていますが、広報ひらかたで研修内容に加え掲載することで、受講生の補助金活用を促す。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業（遠隔手話通訳）								
測定年度	2021（R3）年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性		区分	一般事務事業
事業期間	R3年度（2021年度）	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法、地域生活支援事業　意思疎通支援事業　（遠隔手話通訳）				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	手話を言語とするろう者及びろう児			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題				
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	聴覚障害者及び児に対し、スマートフォンやタブレット端末を用いることで新しい生活様式にも対応可能な非接触、また移動を伴わない、遠隔による手話通訳を行うことにより、社会参加の促進を図るもの。 ①市役所の窓口タブレットでの対応において、市役所におけるサービス向上を図る。②手話通訳派遣事業のうち、遠隔での対応も可能とすることで、利便性の向上及び効果的な運営が可能となる。 ③休日の手話通訳派遣依頼の対応により、当事者の社会生活を送るうえでの安心とサービスの向上を図る。（手話言語条例策定後の取り組みとして）				
事業概要	タブレット端末等を用いた通訳派遣事業を、委託により実施 ①庁内の窓口でのタブレット端末を利用した手話通訳 ②利用者の社会参加等に係る手話通訳派遣として遠隔による手話通訳 ③土日休日においての手話通訳派遣依頼対応（手話言語条例策定後の取り組みとして） 【委託料】 初期費用　465,000円 年間の委託料　6,272,000円				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル	手話通訳派遣事業のうち、遠隔での対応も可能とすることで、利便性の向上及び効果的な運営が可能となる。	利用登録者からの遠隔手話通訳の要請に応じる。	遠隔手話通訳の利用登録者を随時募集する。

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明	遠隔手話通訳に対する満足度 【算出式：アンケートにて「満足」「やや満足」と回答した人数／回答者数×100】				遠隔手話通訳の派遣件数				遠隔手話通訳の利用登録者数			
	単位			%	単位			件	単位			人
指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
指標数値 目標（見込み）		100	100	100		580	585	590		50	55	60
指標数値 実績		－				608				60		
達成度					105%				120%			
分析	アンケートに満足度を把握していないため不明。				目標よりもやや上回った。				目標よりもやや上回った。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.25
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.25
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	―	―	1,964		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	―	―	401		
		特別職非常勤	―	―	0		
		附属機関委員	―	―	0		
		人件費計	―	―	2,365		
	物件費計		―	―	802	8,982	97%
	歳出計		―	―	3,167		
歳入	国庫支出金		―	―	5,527	4,798	
	府支出金		―	―	1,603	2,423	
	受益者負担（使用料・手数料）		―	―	0	0	
	市債		―	―	0	0	
	その他		―	―	0	0	
	歳入計		―	―	7,130	7,221	
一般財源			―	―	▲ 6,328	1,761	

5. 総括的分析

総括的分析	非接触の手話通訳は、新型コロナウィルス感染防止に効果があり、短時間通訳の利用実績は目標を大きく上回った。

6. 今後の方向性

区分	拡充
今後の取組方針	令和3年度によりさらに利用登録者の増加できるよう啓発し利用促進を努める。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	聴覚障害児における人工内耳音声信号装置等購入費助成事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	内部事務	区分	一般事務事業
事業期間	R3年度(2021年度)	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法　地域生活支援事業、　児童福祉法				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	人工内耳音声信号装置を装着している障害児(18歳到達年度末まで)			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	人口内耳音声信号装置における手術及び機器購入に対する経済的負担が大きい。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	補聴器の装用効果が少ない難聴児に対し、人工内耳を装着することで、聴覚獲得の高い効果が期待できるため、発達の保証と教育的配慮及び福祉が向上している状態。				
事業概要	人工内耳は、補聴器の装用効果が少ない場合、聞こえの神経を音の代わりに電気で刺激し、脳で音や言葉の感覚を得ることができる装置であり、難聴児の聴覚獲得方法のため普及している方法である。成人の時よりも子どもの時のほうが人工内耳からの信号に対する脳の反応等が早いことなどから、早い時期に装用すれば、より高い効果が期待できるとされている。このことから難聴児の発達保障と教育的配慮および福祉の向上のため助成を行うもの。また、先行して実施していた人工内耳電池等の交付についても統合して助成事業として実施するもの。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル	高額負担となる人工内耳音声信号装置の装用等に係る経済的負担が軽減される。	受け付けた申請について、適切に助成する。	聴覚障害児のうち、人工内耳音声信号装置を装用または装着後5年経過したことによる交換経費について、助成の申請を受け付ける。

指標設定

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
指標説明	助成率【算出式:助成金額／助成対象経費総額×100】	助成件数	申請件数
単位	%	件	件
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標(見込み)		83	85	85		3	4	5		3	4	5
実績		90				0				0		

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
達成度	108%	0%	0%
分析	申請件数＝助成件数のため、目標を達成することができた。	申請が0件のため、助成件数も0件になった。	本制度について申請に関する相談はなく、申請はなかった。

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
ロジックモデル②	高額負担となる人工内耳音声信号装置の装用等に係る経済的負担が軽減される。	申請に対し、適切に助成する。	人工内耳電池等に対する助成の申請を受け付ける。

指標設定②

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
指標説明	助成率【算出式:助成金額／助成対象経費総額×100】	助成件数	申請件数
単位	%	件	件
指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標

指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標(見込み)		83	85	85		3	4	5		3	4	5
実績		90				3				3		

	アウトカム(活動効果)	アウトプット(活動結果)	インプット(活動)
達成度	108%	100%	100%
分析	申請件数＝助成件数のため、目標を達成することができた。	受け付けた申請について、適切に助成することができた。	受け付けた申請について、適切に助成することができた。

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.10
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	ー	ー	786		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	ー	ー	0		
		特別職非常勤	ー	ー	0		
		附属機関委員	ー	ー	0		
		人件費計	ー	ー	786		
	物件費計		ー	ー	113	1,650	7%
	歳出計		ー	ー	899		
歳入	国庫支出金		ー	ー	0	0	
	府支出金		ー	ー	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		ー	ー	0	0	
	市債		ー	ー	0	0	
	その他		ー	ー	0	0	
	歳入計		ー	ー	0	0	
一般財源			ー	ー	113	1,650	

5. 総括的分析

総括的分析	人工内耳電池については、受け付けた申請について、適切に助成することができ、保護者の経済的負担を軽減することができた。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	昨年度に引き続き実施する。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害者総合支援法・児童福祉法に基づく給付事業								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	2.健やかに、生きがいを持って暮らせるまち							
	施策目標	10.障害者が自立し、社会参加ができるまち							
	実行計画名	障害福祉サービスの充実							

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業	区分	非選択的事務事業
事業期間	2006(H18)年度	年度	～		年度まで
根拠法令等	障害者総合支援法・児童福祉法				
関係補助金名称		サンセット		~	
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	自立した日常生活又は社会生活が営むため障害福祉サービス等の給付を必要とする障害者			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことが困難。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	必要な障害福祉サービス等の給付により、障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができている。				
事業概要	障害者の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活が営むことができるよう、必要な障害福祉サービス等の給付を行う。 補装具の給付及び自立支援法対応システムの管理				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル		補装具の助成を行う。	補装具の助成申請を受理する。

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明					決定件数				申請件数			
			単位				単位				単位	
指標種類					増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）						1,100	1,100	1,100		1,100	1,100	1,100
実績						884				890		
達成度					80%				81%			
分析					引き続き、適切な交付決定に努める。				引き続き、適切な申請処理に努める。			

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル②		自立支援給付の請求内容を審査し、返戻処理など行った上で支払いを行う。	自立支援給付の請求に係る請求が行われる。

指標設定②	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明					支払件数				請求件数			
			単位				単位	件			単位	件
指標種類					増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）						50,728	52,296	53,864		50,728	52,296	53,864
実績						52,643				52,380		
達成度					104%				103%			
分析					請求内容に対し、審査を行い、適切に処理した。				引き続き、請求を適切に処理する。			

ロジックモデル③	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
		障害児支援サービス費の請求内容を請求内容を審査し、返戻処理など行った上で支払いを行う。	障害児支援サービス費に係る請求が行われる。

指標設定③		アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明						支払件数				請求件数			
				単位				単位	件			単位	件
指標種類						増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標（見込						26,990	27,540	28,090		26,990	27,540	28,090
	実績						25,354				25,669		
達成度						94%				95%			
分析						請求内容に対し、審査を行い、適切に処理した。				引き続き、請求を適切に処理する。			

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	0.10
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付			786		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）			0		
		特別職非常勤			0		
		附属機関委員			0		
		人件費計			786		
	物件費計				8,726,408	8,952,456	97%
	歳出計				8,727,194		
歳入	国庫支出金				5,099,630	5,648,638	
	府支出金				2,528,001	2,824,304	
	受益者負担（使用料・手数料）				0	0	
	市債				0	0	
	その他				3,279	2,406	
	歳入計				7,630,910	8,475,348	
一般財源					1,095,498	477,108	

5. 総括的分析

総括的分析	今後も決定件数の見込みが推測しにくいが、引き続きこれまでの取り組みを継続する。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	事業を継続実施し、障害者の適性に応じ日常生活・社会生活が営むことができるようサービスを充実に努める。

事務事業実績測定調書

事務事業名称	障害企画課運営事務								
測定年度	2021(R3)年度		部	福祉事務所		課	障害企画課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4	
総合計画体系	基本目標	9.施策体系外							
	施策目標	99.施策体系外							
	実行計画名								

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務
事業期間	R4年度(2022年度)	年度	～		年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	~
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	課職員			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	所管事務の円滑な運営を実現する。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿（課題が解決した状態）	障害企画課所管事務の適正かつ効率的な執行を図る。				
事業概要	障害企画課所管事務の適正かつ効率的な執行を図る。				

2. ロジックモデル及び指標設定

	アウトカム（活動効果）	アウトプット（活動結果）	インプット（活動）
ロジックモデル			

指標設定	アウトカム（活動効果）				アウトプット（活動結果）				インプット（活動）			
指標説明			単位				単位				単位	
指標種類												
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
目標（見込み）												
実績												
達成度												
分析												

3. 人員体制

（人）

	R3
正職員（再任用）	2.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.25
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

4. 決算額

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。

（千円）

			R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	ー	ー	15,714		
		会計年度任用職員（時間外、交通費等含む）	ー	ー	609		
		特別職非常勤	ー	ー	0		
		附属機関委員	ー	ー	0		
		人件費計	ー	ー	16,323		
	物件費計		ー	ー	130,416	144,800	91%
	歳出計		ー	ー	146,739		
歳入	国庫支出金		ー	ー	26,568	20,053	
	府支出金		ー	ー	0	0	
	受益者負担（使用料・手数料）		ー	ー	0	0	
	市債		ー	ー	0	0	
	その他		ー	ー	0	0	
	歳入計		ー	ー	26,568	0	
一般財源			ー	ー	130,848	144,245	

5. 総括的分析

総括的分析	引き続き、これまでの取組を継続し、運営事務処理を行うように進めていく。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	各事業の運営事務処理を円滑に行うよう努める。